

日本と中国の紹介

(The custom of introducing in Japan and China)

ヤン チュウニン (Chuning Yang)

82-271 : Intermediate Japanese I

この作文では、違う国での敬語の使用、おじぎと握手のこと、あとは姓とファーストネームの使用について書こうと思う。日本では、姓を使って人を呼ぶことが多いそうだ。ビジネスではタイトルで人を呼ぶ方が多いみたいだ。そして、日本では、目上の人と話すときは敬語を使って、それで尊敬を表現する。家で家族と話す時や学校で友達と話している時は敬語を使わなくてもいいそうだ。それから、おじぎは、日本人として大事なことだ。人と会った時はいつもおじぎをして、あいさつをするそうだ。私の国では、日本の習慣と同じところも違うところもある。まず、日本とほぼ同じく、私の国でも人を呼ぶ時に姓を使うことが多い。次に、中国語にも、敬語がある。しかし、その量が少ない。敬語を使う時も、日本人ほど頻繁じゃない。特に普通の生活ではほとんど使わない。とても正式な場合にしか使わない。最後に、私の国ではおじぎをすることが少ない。ほかの人と初めて会った時に使う握手が、おじぎと似ている。中国は、日本ほど人のステータスを言葉で表すことはない。目上の人にも普通の言葉で話せる。中国は、日本より人々の距離感がなさそうだ。結論として、違う国の習慣は、その国の人間関係を表しているかもしれないと考える。

日本と中国のあいさつ言葉

(Greeting words in Japan and China)

ヤン チュウニン (Chuning Yang)

82-271 : Intermediate Japanese I

この作文では、日本のあいさつ言葉と中国のあいさつの習慣の同じところや違うところについて書こうと思う。日本人はあいさつの後、よく天気の話をするそうだ。「今日は寒いですね」とか話すそうだ。そして、日本人は同じ日に2回目に会った人には、もう一度あいさつせずに会釈をする。ちょっと頭を下げておじぎをするそうだ。その上、日本人はエレベーターで一緒になった時など、知らない人にはあいさつをしないが、知っている人にはあいさつをするそうだ。私の国では、まず、人と会った時はよく「食べましたか」と聞く。次に、中国では、同じ日に2回目に会った人には1回目に会った人と違うところがない。あいさつをもう一度すればいい。最後に、中国では、日本と同じく、知らない人にはあいさつをしなくて、知っている人にはあいさつをする。日本人は、あいさつの時自分のことより世界のことを話すのは、日本人が中国人よりオープンじゃないと思う。中国ではあいさつの時にしなければいけないことがあまりない。中国の習慣は日本ほど厳しくないと思う。最後に、中国も日本も知らない人とあいさつをしないのは、この二つの国の人間関係が似ていることを表しているかもしれない。結論として、中国は日本と同じところもあって、大体は日本よりオープンな習慣があると思う。

日本と中国の依頼の仕方

(The ways to request in Japan and China)

ヤン チュウニン (Chuning Yang)

82-271 : Intermediate Japanese I

この作文では、日本語で依頼する時の言葉使いと他の言語の同じところと違うところについて書こうと思う。日本では、依頼をする時に、日本人はためらいがちに、文を途中までしか言わないそうだ。例えば、会話1でキャロルさんが「ほかの試験が二つもあって…」と言った。キャロルさんは日本人のように、依頼をする時に、困っている状況だけを説明して、相手に依頼の内容を察してもらった。それから、日本語では依頼表現には可能否定形がよく使われるそうだ。キャロルさんが「試験を前の日に受けさせていただけませんか」と言うのが例だ。まず、中国では、依頼をする時は、日本と同じく、文を途中までしか言わない。人に頼まれた時は大体内容が分かるから、最後まで言う必要がない。次に、中国では、依頼をする時、困っている状況だけを説明する時もあるが、相手に依頼の内容をはっきり言う場合もけっこう多い。最後に、中国語では、依頼表現に可能否定形もあるが、日本語ほど多くない。この言葉使いの違いと聞いているところは、私はおもしろいと思う。私は中国からアメリカに来たから、アメリカでは依頼をする時は依頼の内容を言わなければ、相手は依頼の内容が分からなくて、困っているように見える。これは、アジアは大体アメリカほどオープンじゃないからだと思う。中国は日本と同じくアジアの国だから似ているところが多いと思う。結論として、中国は日本と似ているが、少し日本よりオープンな言葉使いをすると考える。